

【参考10】廃棄物等の発生量

区 分	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	備 考	
	発生量	発生量	発生量	発生量	発生量		
可燃物	53,448 kg	77,286 kg	76,056 kg	80,600 kg	70,105 kg		
実験廃液	5,334 L	10,019 L	14,477 L	16,519 L	13,866 L		
循環資源	廃プラスチック類	38,850 kg	8,618 kg	18,738 kg	15,054 kg	15,090 kg	
	ペットボトル		699 kg	1,217 kg	1,664 kg	1,664 kg	
	アルミ缶		317 kg	532 kg	542 kg	504 kg	
	金属くず		9,587 kg	11,705 kg	8,144 kg	8,519 kg	
	機器等		4,890 kg	3,147 kg	2,850 kg	2,223 kg	
	電池類		392 kg	311 kg	435 kg	469 kg	
	古紙	43,960 kg	51,941 kg	42,584 kg	46,528 kg	49,469 kg	
	空き瓶	2,650 kg	6,032 kg	5,641 kg	5,475 kg	4,827 kg	
	ガラスくず	4,580 kg	1,908 kg	1,930 kg	1,986 kg	1,741 kg	
	生ゴミ					2,832 kg	H17.12月より
合 計	148,822 kg	171,689 kg	176,338 kg	179,797 kg	171,309 kg		
研究所の職員数	851人	926人	1,007人	1,006人	982人		
1人当たりの発生量	0.479 kg/人・日	0.508 kg/人・日	0.480 kg/人・日	0.490 kg/人・日	0.478 kg/人・日		

- 注1 13年度の可燃物発生量は一部推計値が含まれ、14・15年度と算出方法が異なる。
- 注2 生ゴミについては、従来可燃物に含めていたが、17年12月からコンポスト化することとなり、循環資源の中に新たな区分を設け、その量を記載している。
- 注3 循環資源は、リサイクル専門の外部業者に全量を処理委託した。
- 注4 合計の重量は、実験廃液を1リットル=1kgと仮定して計算した。
- 注5 職員数は、通年で勤務している人数を勤務形態等から算定した数で「常勤換算数」による。
- 注6 所内の研究及び事務活動から直接生じたものを本表の集計対象としている。